



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1935, 24(1): 74-80

ISSUE DATE:

1935-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184437>

RIGHT:

蒙古、名古屋の商園(岡田)、幡豆郡の人口分布(久田)、神野新田を中心とした養蠶地帯(栗原)、小栗海道(服部)、櫻井貝塚附近(三井)瀬戸地方の硝子粉工業(宮地)、地理學的心境の變遷(耕崎)、地理學習の準備と郷土地理(平山)、小學校に於ける地理科の理法探究(富田)、校外指導の一例(中村)、地理教授に對する私見(橋本)の十四篇があり、最後に沿革や事業の報告がある、すべて同人の熱心な研究的態度を多とすべきであらう。(藤田)

## 雜報

### ○世界石油業の現勢

一九三四年の世界石油界は一九二九年以來の大好況であつたが、就中米國は需要額最高記録に達し九十六萬バレルの記録をしめしたが、その供給は九十四萬バレルであつたからストックは近年になく減少した。

イラーク 一九三四年にイラーク輸送管が新設されトリポリ線は五三一哩、ハイファ線はこれより八七哩長く夫々一日四〇、〇〇〇バレルの石油を輸送しうる。

ルーマニア では近年生産過剰で、政府が制限を加へたから産出は十分でなかつた、この國の産油の八〇%は海外に輸出される、その収入はこの國の海外支拂決済となるのだからイラークの供給増加はこの國の石油界に影響をするであらう。

日本及滿洲 日本は一九三四年六月一日から輸入原油及精

油を管理しはじめた、滿洲では石油專賣法を實施した。

バーレン島 波斯灣のバーレン島からの積荷は一九三四年十月加州スタンダード石油會社へ到着した、同會社は全島の租借權を獲得し、一九三四年初頭、工場建設をはじめた、但し同島附近のアラビヤ本土の分は英國資本が獲得した。

佛國 一九三四年中佛國最大の精油工場が出来一日一萬八千バレルの能力がある、このために原油の輸入増加と精油の輸入減退となつた、これはイラークの原油の輸出増加に呼應するのである。

トリニダット は全英帝國領土中最大の産油地であるから英帝國へ生産石油に對する關稅上の優先權を賦與せんとしてゐる。

メキシコ 一九三四年より政府監督の石油會社が營業をはじめたが、その株は殆ど政府の手にある。

イタリーにも政府管理の石油會社がある、同國一日平均ガソリン需要量は一萬バレル、これに軍艦や商船を加へて、全精油需用、一日三萬バレル。

ドイツ は一九二四年、四十四萬五千バレルしか生産しなかつたがノインハーゲン地方で新式採油をやつたから一九三四年には二百三十萬バレルに躍進した。

ロシア 一九三四年は同國石油産出の最高記録をしめし一億六千九百萬バレル、前年よりも二・六%を増進した。一九三五年以後深掘にして三〇%の増加を企てゝゐる、但しもし

露國に採取機械が不足しないやうになつたら三〇%の増加はわけもないであらうといふ觀測さへ行はれてゐる。

### ○極東國營漁業トラスト罐詰工場

ソウイェトの極東國營の罐詰は著しき不成績をしめした、現在その工場数は八、半手工業的罐詰工場一であつてボボフスキー及タフィンスキー工場の外は、すべて第一次五ヶ年計畫の建設である、即ちプチャチン、ウアレレンケン、ムトウハ、プラストウン、ネリマ、イノケンチエフスキーの六つで、前二工場もこの計畫の當時改造されたものであつて理論上製造全能力は、一時間千二百二十六箱であるが、ソウイェト供給のブリキが厚手なために使用しがたく、全能力の半も出来ない、其の種目は鯛の罐詰が八五%その他雜魚や紅鱒、貝などを少量につくる。

一九三三年に製造高十七萬八千六百箱で計畫の五〇%しか出来なかつた、しかもその内販賣に適するものは十七萬二千箱しかなかつた、しかも計畫の漁獲高は十分にとれてゐたのである、何故に工場がかやうになつたかといふと第一に鯛の網取作業が家族の主婦や子供に任せたりなで、魚を網につけたまゝ永く水中に放置したり、之を亂暴に扱ふために魚が毀損したりするので、其率は平均二〇%にしか達しない。

極めて近接の漁場であつても、其罐詰工場への適當な漁獲物を迅速に廻はしてこないことや、罐詰のための不良罐が多く、簿記の上で引渡済の千五百八十萬個の罐のうち全然間に合はない罐が九十八萬個も出来てゐたといはれる。それとい

ふのも罐の工場に原料が行渡らないこと、空罐保存の法がつてゐないこと、運搬が無茶苦茶なので途中で破れたり、錆びたりするからであるといふ。

そこでこれを改良するために各工場を隣接漁場と共に作業上經濟上單一のバランス、單一の計畫ある獨立企業にすると同時に、魚類の網取外<sup>アマトリバズン</sup>の人は人足にも熟練労働者を雇ふこと、及び一般漁業關係者を教育して仕事を眞面目にするやうにしながらはならない、又生魚の腐敗しないやうに充分の水を貯へなくてはならぬ、沿海州の氣候では水を山積にしておくにすぎなくてしまふから、氷藏庫をつくらねばならぬ、其他各般の注意改良を必要とすることがソウイェトの漁業經濟の報告に出てゐる。

産業五ヶ年計畫などいつても、これに適する労働者と、教育された熟練工は五年や十年で出来るわけのものでない、ことにロシア人は陸の人で海のこととは皆目わからぬのだからかうした無計畫的の減茶な結果にするのは當然である。沿海州にしても、カムチャツカにしても、日本人の活動を外にして罐詰などいふものは、出来るものではないのである。

### ○蘇聯邦棉花栽培

ロシアの棉花栽培の歴史は古く主として中央アジア及コーカサスの原地又は河畔に行はれ、帝政露國の六百萬鍾を有した紡績工業時代では原料の半を外國から輸入したが、ソウイェトになつてから、急激に棉花を獎勵し自給自足の域に達し、少量を英國へ輸出し得たこともあつ

た。從來不毛の地も耕作されて、北コーカサスやウクライナ、ウォルガ河畔に棉花地方も出来、其將來は有望になつてきた、舊地方ではアゼルバイジャンとウスベク地方で在來棉をつくつたが、近時米國種を輸入し殆ど改良してしまつた、猶この地方ではアムダリヤ、シルダリヤの流域に更らに新しい擴張を試み、一方新地方としては北部コーカサスのダケスタン地方、アゾフ海岸、クリミヤ半島、ウクライナの南部ヘルソン地方、ウォルガ河南端のデルタ、アルメニヤ、ジョールジャの山間溪谷等であつて正にその面目を一新せんとするに至つた。

併し第一次五ヶ年計畫中一九三〇—三二年の急激な栽培面積の擴張は、必要な施設と勞作を伴ふことが出来なかつたため、一九三二年の收穫は一九二八年よりも反當收穫の減退を見た。そこで一九三三年から新しい栽培面積の擴張を中止し收穫の増加をはかつたけれども、一九三四年に於ても、一九二八年程には達しなかつた。

その理由は從來政府は棉花地方にその耕作を強制し、其生産した棉花は政府の定めた定値で之を強徴すると共に、棉作農民は其食料を政府の供給に俟つので、一見公平なやうでも人民は満足しない、思ふやうに働かないからである。

中央アジアで灌漑地（ポリウナヤゼムリヤ）は勿論灌漑不利地（ボガラ）とは比較にならぬ程土地がよい。それをロシア政府はすべて強制して棉花を作くらしたのであるが、灌漑溝渠は政府の力で出来てゐるのだから、農民は之に反抗が出来

ず、自から棉花栽培は容易にホルホーゾ化されてしまつたのである。けれども、灌漑地以外につくる雜穀や蔬菜は到底人民を満足せしめない、不平も起るやうになつた、處がソヴィエト政府は、其後農村對策を緩和して、農民が一定の政府納入額の義務を果した後、其餘剩物を自由市場にて販賣することを許可するに至つたが、棉花に限つては一定量を納入した後といへども、他に自由販賣を許さないから、猶更棉花收穫の成績は上らないのである。さうして一九三五年一月以後パン切符廢止をやつて、パンの公定値段を棉花地に限つて安くした、同時に棉花の買付値段を上げ、改正制度で棉作農民の失ふ所を補給せんとするに至つたが、果してこれで成績がよくなるであらうか。

中央アジアでは、五百四十八担の麥粉に對し棉花一噸が物々交換されるやうな比率を以て價をきめてあるのである。果してかうしたことも都合よく出来るであらうか。

## ○トリエスト港

伊太利國海運界に於てトリエストはゼノア及ヴェネチアについて第三位をしめ、中歐を控へたアドリアチック海の重要港である。一九三四年度この港の海上運輸量は二百五十萬噸に達し一九三三年の百九十萬噸よりも三一%を増加した、これに反しゼノアは七百萬噸で一一%の増加に止り、ヴェネチアは三百七十五萬噸で二六%の増加にすぎなかつた。

伊太利の港と關聯して同様中央歐洲への供給を取扱ふ所の

ドイツのハンブルクは、トリエストの商圏に手を擴げ、七百  
軒の國際河川エルバ川によつて、其支流と運河はベルリン、  
ポーランド、シレジア、南部歐洲に連絡があるから、トリエ  
ストの強敵となりうる、しかしアントワープやロツテルダム  
は運送商は多いけれどもトリエストを脅かしはしない。

元來トリエストはダニユーブ河沿岸諸國と近東との連絡に  
あたる港で、特に奧國、匈牙利、ユーゴスラビヤ等への關  
係がふかい、そこでハンブルクがエルベ河の水準低下のため  
に一億馬克を費やして、今回其工事を行ふ以上、トリエスト  
は急行鐵道網をひろげるとか、巨船を集中するとか其對策を  
講じなくてはなるまい。

伊奧通商協定以後この港の活動は、一段と良好になつたが  
歐洲一般の景氣が直らぬ間は、早急に恢復はしない。但しオ  
ーストリアの貿易は年々二百五十萬噸の木材と多量の褐炭、  
鐵礦、泥炭、マグネシウム、セルローズ等を輸出するので  
一九三一年に同國の輸出入は千萬噸に上つた、これらの中で  
トリエスト港を通じて奧國への輸入商品をみると雜貨、珈琲  
棉花、米、煙草、果物、油種、玉葱、大麻、銅、木材、穀物  
で現在この港を通ずる奧國品は非常に多くなつた、伊奧通商  
協定の結果である。

**○カナダの貿易** 一九三四年に於てカナダの經濟界は著  
しく景氣を恢復し、國民の購買力も一人當一九三三年の三百  
二十三弗より三百八十三弗に増加したといはれ、輸出は六億

六千萬弗、輸入は五億萬弗、輸出超過額一億四千萬弗に上り  
前年よりも二割以上の増加となつた。一九三二年オタワに於  
ける英帝國經濟會議で締結された特惠通商協定がいよいよ效  
を奏し、英本國への輸出は一九三四年に於て九千二百萬弗、  
即ち其以前からみて五割九分も増加し同時にカナダから英帝  
國屬領への輸入も六千五百萬弗で前年よりも六割から激増し  
た、就中南阿聯邦は一ヶ年に一躍倍加し、濠洲へは六割六  
分を増した、かくて英帝國全體として三億三千五百萬弗の輸  
出額となつたから、カナダ輸出の五割はすべて英帝國内に入  
つたことになつた。同時に英本國並に屬領から加奈陀への輸  
入は一億六千萬弗程度になつた、輸出に比して輸入が少いの  
は地理的に近い米國の輸入が激増した結果である。一九三四  
年米國よりの輸入は約三億萬弗で、前年より三割五分増加し  
た、この中一億二千萬弗は無稅品である。オタワ會議の結果  
はかくして米國に大なる利益となつたのである、勿論米國へ  
はカナダからの輸出二億三千萬弗といふものがあるから幾分  
相殺されてゐるのである、米國へは新聞紙、バルブ、木材製  
品、材木、ウキスキー、ニツケル、小麥などが主として送ら  
れる。いづれにしてもカナダの貿易の相手は英帝國と米國で、  
この兩國で全輸出の八割五分五厘をしめ、輸入は八割七分八  
厘にも達するから、右兩國以外の國は極めて寡少である。  
従つてカナダが我國產品に對して高率關稅をかけて平氣で  
ゐられた理由も自ら明であらう。

一九三四年輸入

同 輸出

全英帝國 一五七、〇六六、七一〇弗 三三五、二四五、一三八弗

米 國 二九三、七七九、八一三 二二二、五四四、〇九三

ドイツ 一〇、二七九、四八二 六、一七一、八七二

佛 國 六、二九八、二四五 一〇、〇八九、七八二

日 本 四、四二四、七二一 一六、四七五、八二九

しかしこの表にみるやうに日本はカナダの貨物を一千六百萬弗以上も購入するが、日本品の輸入は僅に四百四十萬弗にすぎない、しかも、カナダからみれば米國について第三位の輸出國であり、第四位の輸入國であるのだ、カナダに對する報復關稅を課することは當然といはねばならぬ。

### ○米國の對日貿易

米國の對極東貿易のうち日本は遙に他國を凌ぎ、輸出入共に第一位である（但し米國全體からみれば對日貿易は全外國貿易の九分に當る）一九三三年米國の對日輸出は一億四千三百萬弗で前年よりも九百萬弗を増加し一九三四年上半期は輸出九千百萬弗で、前年よりも四千萬弗を増加した。日本よりの輸入は一九三三年は減少したけれども、一九三四年上半期は、五千萬弗を超えて約二割方増加した。

過去數年間に於て日米貿易に關し顯著な事實としてみるべきは、兩國間貿易尻の逆轉で、一九三二年迄は常に日本側に輸出を示めしたが、同年に至り米國は始めて五十三萬四千弗の輸出となり、一九三三年には更に増加して千五百萬弗の出

超となり、一九三四年上半期には輸出額三千百萬弗に達したこれは實に日本の産業の發達に伴ひ、使用せらるべき棉花、鐵鋼、銅、石油其他原料品の輸出増加の結果で一方日本よりの輸入の八割を占めた生絲が價格の下落と、米國の絹工業の不振によつて、其數量並に價格が減少したからである。

日本は一九三一年以來綿織物工業に於て著しき發達を示せるにつれ、米國棉花の最大市場となり、一九三二年には二百二十四萬俵（一九三三年は百八十一萬俵を輸出したが、これを一九三一年に至る過去五年の平均輸出百萬俵に比して、著しき輸出増加である。一九三四年上半期に七十八萬九千俵、四千五百萬弗に達し、前年同期より六萬俵増加してゐる。

日本の軍需品並金屬工業が旺盛となつた爲に米國より鐵、銅鐵半製品、鋼鐵產品の輸出は一九三二年の二百九十五萬九千弗より一九三三年の七百八十四萬五千弗に増加し、其内、鐵及鋼鐵屑は夫々百三十二萬五千弗及四百七十三萬九千弗となつた。

弗貨の下落により日本の米國自動車及トラックは其價格減少したので輸出増加をしめし、日本産業界の情勢改善のため米國品主として機械類、肥料、葉烟草、小麥及皮類なども日本への輸出が増加した。

一九三三年日本よりの生絲の輸入は激減したけれども、樟腦、螢鐘詰、除蟲菊、陶磁器、絹織物及綿製敷物等の輸入は其價格何れも増加し、電球、刷子類、ゴム靴、人形及其部分

品は一九三三年輸入税率引上又は不當廉賣税などで取引上不安となり、其結果輸入減少した。しかし一九三四年上半期生絲は二千七百萬封度、三千六百萬弗を輸入したに止まり前年とほぼ同一の程度を示した。

### ○ランカシア棉業 一七六九年アークライトが水力紡績機を發明してから、一七七九年カートライトが力織機を完成した時迄の間英國ではランカシアの棉業の優越が保持されて世界に君臨した、この間種々の發明が出來て、諸種の織物を創造したのでランカシアに及ぶ國はなかつた、現在の競争國は其後英國の機械を輸入して之を模倣したのにすぎなかつた。

そこで英國人は織物の分業化をはかり、織布業者が要求する原絲のどんなものでも供給しうるやうになつた。數代に亘る間に、父から子、母から娘いづれもが、ランカシアの綿布で大きくなつてゐた。

綿業は顧客の需要に適應といふ標語の下に於て、ランカシアの各地は特色ある絲をつくりだした。例へばロイトンやロツチデール地方では針金のやうに丈夫な太番綿絲をつくりオルダムの諸工場は最良の中絲をつくり、ボルトンの諸工場では細絲を専門に紡いだ、かくてランカシアの各都邑は夫々紡織機械の一種又は數種の部分品を供給する任務をとることになつて、バーンレイは捺染用の織物を作り、ブラツクバーンは印度向スカールをつくり、ネルソン及其附近はフアンシ織物をつくり、又オルダムでは天鵝絨、フアスチアン、廣幅

シャツを織り、ボルトンでは化粧臺用、寢臺用の織物をつくりタオルや優美な家庭用布を製するといふ風に其品種は極めて多岐にわたつてゐる。織物は生地、漂白、染色、或は防水防火いろ／＼の用があり緻細なボイルから鐵のやうに強いベルトまでもつくられる、綿布を自動車のタイヤにすることもランカシアの仕事の一である、かやうにすべての方面に發達したランカシアの棉業を局外から機械が時代遅れなどいふのは決して當を得てゐない、ランカシアは目下不振期を経過して將に方向を轉換した、新英印通商協定ではまだ十分ではないが、ランカシアは決して數代に亘り築き上げた相續財産を人手にわたすことはないであらう、安價にして不満足な商品(日本品)は決して優良品に勝つことは出來ないとこれが英人の告白である。

### ○山西省の農産

山西の地方治安は他に比較にならぬ程良好で有名であるが、人民の税捐の重いことは全支一樣であるから、特に生産が發展するわけでもない。ことに阿片の害が甚しい山西人は由來商業が上手で、東三省、熱河、外蒙古方面へ行商に出たものであるが、最近の政變以後全くこの商賣が出來ないので、毎年山西へ送られてゐた巨額の送金が停止したので、是等の商人は歸國して農業に従事しはじめた。元來山西は山多く平地少く汾水一帶の平地をのぞいては肥沃とはいへぬ、水利もわるい、土地が瘠せてゐる故に、山西人は商業を重んじ、農耕を輕ずるに至つたもので、其形勢は紀

元第一世紀に既に史記の導破したところである。故に今日でも山西の人口は稀薄で、人口数は全國で八〇%であるのに、山西は六八%しかゐない、農を重んじないから自ら小さい自作農が多い、山西の富豪は錢莊に手を出しても、地主にならぬからである。耕地は氣候と水利との關係で北區雁門、中區冀寧、南區河東とわけると、北部は人口比較的稀薄農民一人平均二十畝を耕してゐる、雨量は年平均三百耗以下百耗であり冬期嚴寒であるから冬作は出来ない、夏期の一毛作も粗雑で一人當の農場面積は八十畝乃至百畝に達し得る。一畝は二百四十歩だから、一人の農夫で日本の七、八町歩を耕し得る力であるが、實際は一町半位しか作くらぬ故に、農民の耕作能力は餘剩ありといへる、中區は比較的氣候も溫和で、水利もよいが、やはり氣候大陸性の高原だから、北區よりやゝ優良で、一人當三十畝を作るやうになつてゐる。南區は汾水の流域で水害さへなければ、河南省や安徽省と同様の豐饒地域であるが灌溉による水田と旱田とがあつて、水田は二毛作がとれる利がある、そこで一人當旱田二十五畝水田七畝に達する、それでも人口が稠密だから一人當の作地十二畝半で勞力過剩である。山西は黃土の地だから勿論不毛地が多くて十萬頃にも達する。水利を考へて、地下水を利用しうるに至らば將來は有望であると考へられる。北區は燕麥、(筱麥)粟、高粱、豆、馬鈴薯、蕎麥、胡麻等をつくり、麥と馬鈴薯を常食とする、一畝當八斗しかとれないけれども土地廣く人口少いか

ら毎年三百五十萬石を輸出しうる、多くは河北省の不足を補ふ。中區では北區の各種の外に小麥と少量の米や棉花、烟草がとれる。燕麥は南にゆくに從つて減じ、玉蜀黍にかはる、一畝の收穫一石二斗に達し、四百萬石の餘剰が出来る、米は奢侈品で、山西大原の晋祠米は最も上等で毎年一萬三千石を産出する。南區は土地最も肥沃で棉の獎勵をやつてゐる。年産六十萬擔内四十萬擔を輸出し年額千五百萬元に達する。小麥五百萬石、玉蜀黍や豆がとれ、水田一畝收穫二石五斗に達するので糧食は一千萬石を産する。しかしこれでも人口が多く自給自足が出来ぬから、中區から毎年五百萬石位を移入してゐるのである。要するに農産地としてもまだ好條件に恵まれてはゐないのである。各縣の建設局では棉業や烟草の獎勵をするが、もしこれを獎勵すればそれだけ、糧食の旱田を増加しなければならぬ、そこで水利事業に目をつけ、汾水の流域で、蘭村、臨汾、襄陽、新絳等の各縣で機械水揚灌漑設備をやつたところ二十萬畝に水をそゝいで四十萬石の生産を増加した、もしこれを盛んにすれば、山西の農産は二倍になるであらう、昔は秦時關中に鄭國渠を設けて關中の富天下を歴したこともあれば、漢武帝の時にも盛んに水利灌漑を起して長安の都は天下の富の中心ともなつた。さうした紀元第一、二世紀の昔にかへることが、現在の支那では容易ならぬ有様になつたものと認められる。